

芦別市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

芦別市は、広大な行政区域に集落が点在するといった地理的問題を有している。こうした、市内バス路線は、通院、通学など市民生活の足として重要な役割を果たしてきたが、自家用車の普及、人口の減少などの理由からバス利用者は減少の一途をたどっている。

当市の人口に占める65歳以上の高齢者の割合は44%を超えており、旭川市、砂川市、滝川市など他市に通院する方も多く、そうした市民にとって市内バス路線は、JR及び地域間幹線系統(滝芦線、芦旭線)と接続する重要な交通手段であり、今後更に高齢化が進展するなかで、交通弱者の通院や買い物など市民生活の足として、幹線系統に接続する市内バス路線の確保維持が必要である。

生活交通ネットワーク計画の目標

1 本町循環線	6,000人/年
2 上芦別線	27,000人/年
3 頼城線	37,000人/年
4 芦別温泉線	12,000人/年

車両減価償却費国庫補助 老朽化した車両の更新による車両修繕費用軽減

平成29年度事業概要

【本町循環線】 ①芦別駅前～あけぼの団地～芦別駅前

②芦別駅前～市立病院～芦別駅前

【上芦別線】 ③芦別駅前～南1条東1丁目～さつき団地(国道経由)

④芦別駅前～市立病院～さつき団地(市立病院経由)

【頼城線】 ⑤芦別駅前～南1条東1丁目～頼城(国道経由)

⑥芦別駅前～市立病院～頼城(市立病院経由)

【芦別温泉線】 ⑦芦別駅前～市立病院～芦別温泉

【車両減価償却費国庫補助】

地域公共交通の現況

- ・JR根室本線（芦別駅、上芦別駅、野花南駅）
- ・空知交通(株)（市内4路線）
- ・北海道中央バス(株)（地域間幹線2路線、都市間高速1路線）
- ・スクールバス（5路線）

協議会開催状況

- 平成28年6月29日 平成28年度第1回会議を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について 外
- 平成28年8月29日 平成28年度第2回会議(書面)を開催
変更後の路線及びダイヤについて
- 平成29年1月17日 平成28年度第3回会議を開催
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 外
- 平成29年6月16日 平成29年度第1回会議を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について 外
- 平成30年1月19日 平成29年度第2回会議を開催
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 外

平成29年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・平成23年度に実施した市民アンケート調査及び昨年度実施した「地域公共交通調査事業」の結果をもとに、25年11月から4路線の循環バスを本格運行
- ・利用状況を踏まえた運行形態への移行及び運行費用の圧縮の必要性から、平成28年10月に系統、便数の見直しを実施
- ・バス事業者事務所、バス車内、市広報等でフィーダー路線の周知
- ・バス車体にマグネット広告を掲示し、少額ではあるが運送外収入の確保

2) 運行系統

①本町循環線(コース①・②)



②上芦別線(国道経由)



③上芦別循環線(市立病院経由)



④頼城線(国道経由)



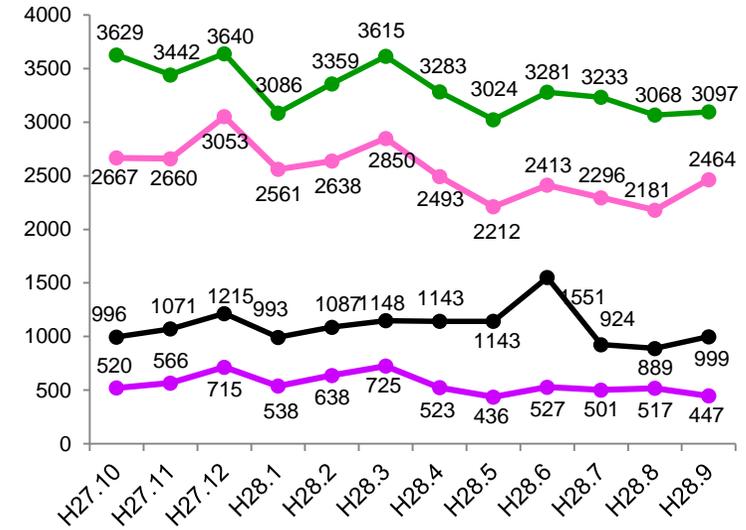
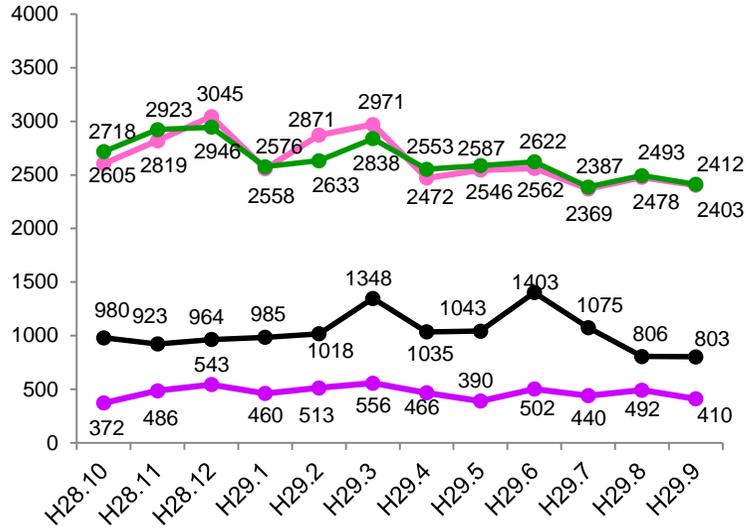
⑤頼城線(市立病院経由)



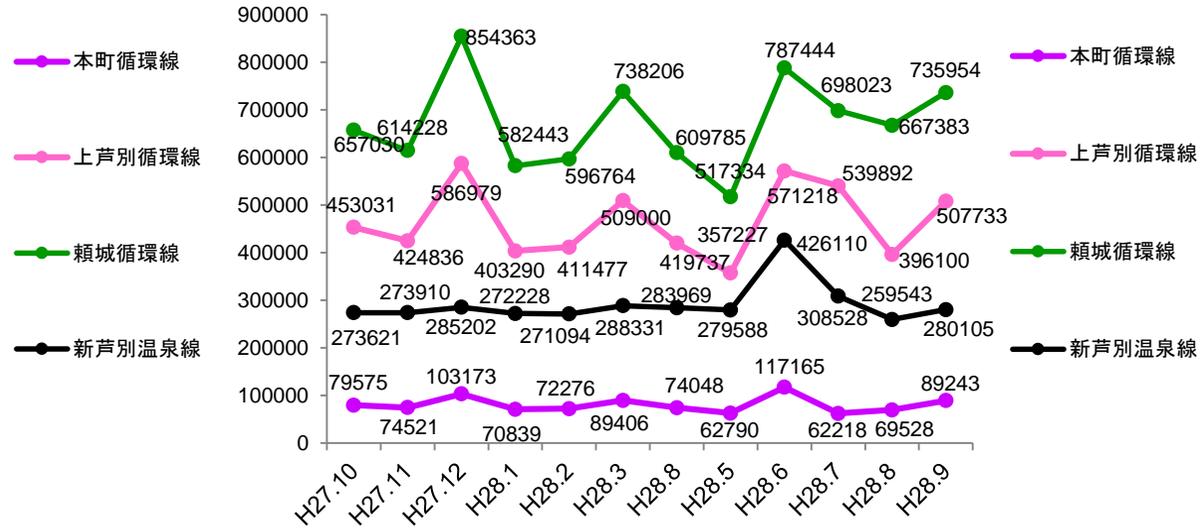
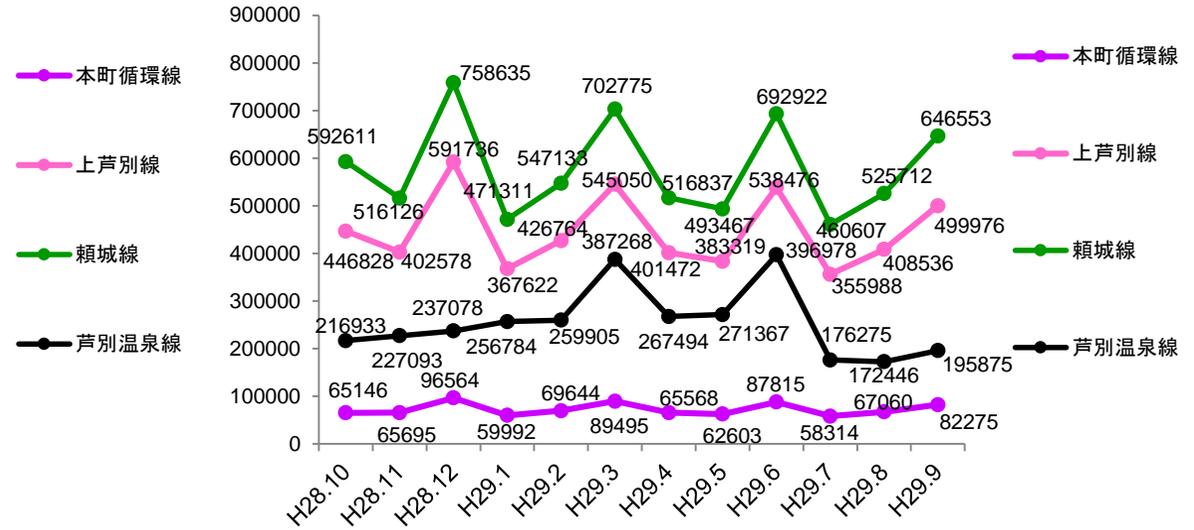
⑥芦別温泉線



3) 利用実績



4) 収入実績 (税抜)



5) 事業実施の適切性

フィーダー事業は計画どおり適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

【本町循環線】

目標6,000人/年に対して、5,630人/年であった。

【上芦別線】

目標27,000人/年に対して、31,699人/年であった。

【頼城線】

目標37,000人/年に対して、31,688人/年であった。

【芦別温泉線】

目標12,000人/年に対して、12,383人/年であった。

【車両減価償却費等国庫補助】

補助金の交付を受けて車両更新を行ったことで、車両の必要台数が確保され、計画どおりの回数による運行ができた。

7) 事業の今後の改善点

【本町循環線】

平成29年度から路線等の見直しを行ったことで、前年度と比較した1運行当たり運送収入は、27.0円(税抜)の増、輸送人員は、0.1人の減となった。しばらくの間、改正後の路線等を維持し、利用状況を把握することで今後の対応を検討する。

【上芦別線】

平成29年度から路線等の見直しを行ったことで、前年度と比較した1運行当たり運送収入は、185.9円(税抜)の増、輸送人員は、1.6人の増となった。しばらくの間、改正後の路線等を維持し、利用状況を把握することで今後の対応を検討する。

【頼城線】

平成29年度から路線等の見直しを行ったことで、前年度と比較した1運行当たり運送収入は、278.8円(税抜)の増、輸送人員は、0.6人の増となった。しばらくの間、改正後の路線等を維持し、利用状況を把握することで今後の対応を検討する。

【芦別温泉線】

平成29年度からダイヤの見直しを行ったが、前年度と比較した1運行当たり運送収入は、425.3円(税抜)の減、輸送人員は、0.8人の減となった。しばらくの間、改正後のダイヤを維持し、利用状況を把握することで今後の対応を検討する。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄